

第3分科会
よりよく生きようとする意思や能力を育む
道徳教育の充実

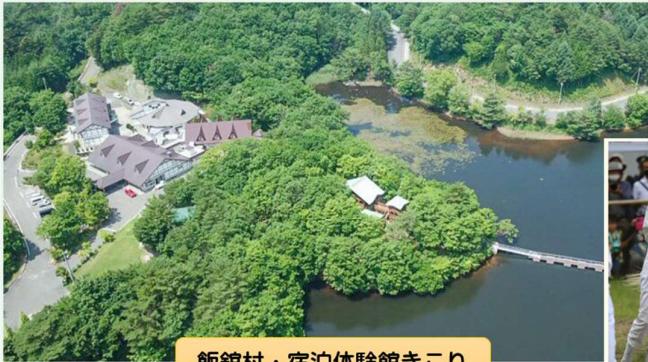
相馬支会の取組について



新地町・鹿狼山から見る初日の出



相馬市・中村神社の桜



飯館村・宿泊体験館きこり



南相馬市(小高区)・野馬懸

Ver.1006

1

第3分科会
よりよく生きようとする意思や能力を育む道徳教育の充実

**[視点3]
道徳教育推進教師を中心とした
協力的な指導体制の充実**

<相馬支会の取組>

2

【視点3】

道徳教育推進教師を中心とした協力的な指導体制の充実

道徳科の授業で使える教材等の校内データベースを構築した実践

【視点3】

＜相馬市立中村第二中学校＞

「学年間ローテーション道徳」の活用を通じた授業の質の向上と働き方改革を意識

した道徳科の実践【視点3】

＜相馬市立向陽中学校＞

「小中同居型の小規模校」における工夫した道徳教育の実践

【視点3】

＜相馬市立磯部中学校＞

「互いを認め合い、ともに輝く生徒の育成」～共生する力を育てる道徳教育～

【視点3】

＜南相馬市立原町第一中学校＞

スクールカウンセラーを活用して、いじめについて考えさせた道徳授業の実践

【視点3】

＜南相馬市立鹿島中学校＞

道徳科の授業で使える教材等の校内データベースを構築した実践

【視点3】

＜相馬市立中村第二中学校＞

校長としての関わり

- ① 道徳の教材等の校内データベースの構築を提案
- ② 授業に使えるアンケートとその結果の蓄積と活用を促すための支援



成果や課題

- データベース化し、すべての先生が適時活用できるようにしたことで、授業準備の効率化だけでなく、考え方・議論させるための有効な手立てとなった。
- アンケートは質問項目だけでなく、回答結果をすぐに参照できることが授業に役立つ。一度作ったものを長期にわたり活用できる。
- ▲ 教材や指導案などさらに多くのデータを蓄積していく



道徳の授業でアンケート
結果を提示している様子

The diagram illustrates a workflow for managing moral education surveys. It starts with a 'Database (Google Drive)' window showing a folder named '中村二中道德' containing five files related to moral surveys. Two blue arrows point downwards from this window to two other boxes: 'アンケート項目' (Survey Items) and 'アンケート結果' (Survey Results). The 'アンケート項目' box displays a sample survey item about autonomy, self-control, and responsibility. The 'アンケート結果' box shows a bar chart of responses for three questions, with the legend indicating five levels of agreement.

質問	選択肢	回答数
1. 自分で決めたことを最後までやり通そうとしている。	5: とてもそう思う	○
2. 自由には責任が伴うことを理解している。	4: まあそう思う	○
3. 困ったときは自分で解決しようと努力する。	3: どちらとも言えない	○

質問	選択肢	回答数
1. 自分で決めたことを最後までやり通そうとしている。	5: とてもそう思う	5
2. 自由には責任が伴うことを理解している。	4: まあそう思う	13
3. 困ったときは自分で解決しようと努力する。	3: どちらとも言えない	5
	2: あまりそう思わない	2
	1: 全くそう思わない	0

道徳科の授業で使える教材等の校内データベースを構築した実践 【視点3】<相馬市立中村第二中学校>

道徳の授業の導入や展開の活動等で、事前に実施したアンケート結果を提示し、子どもたちの実態をもとに話し合ったり、考えたりするきっかけとすることが多い。子どもたちの議論を刺激する材料となる。ICTを活用すれば効率よく実施でき、また結果を教員全員で共有することで、いつでも活用できるようにしたいと考えた。

校長としての関わりは、道徳教育推進教師に対して、取り組み内容を提案し、職員全体への周知を支援するなど、働きかけたことがある。若い職員に対しては、後方で支えながら、実績を作らせていくことが大切である。一度企画が軌道にのれば、職員の主体性で推進していくため、個人の成長、やりがいにつながることを期待している。

「学年間ローテーション道徳」の活用を通した授業の質の向上と働き方改革を意識した道徳科の実践【視点3】<相馬市立向陽中学校>

目的 「学年間ローテーション道徳」を活用し、授業の質の向上や多面的な生徒理解、若手教師の育成等のメリットを意識した道徳科の授業改善に向けた取組を行うことで、授業の質の向上や働き方改革につなげる。

校長としての関わり（実施体制の確立までが主な関わり）

- ① 同学年、同一時間（金・5校時）でのローテーション道徳の実施
- ② 1回目…担任するクラス、2回目以降…他のクラス（3クラス分）
- ③ 1か月を見越した道徳授業の構想、授業展開についての相談
- ④ 道徳授業日の放課後に短い時間での振り返り、共有の時間の確保



他
のクラスでの道徳は、
生徒の質の向上や多面的な生
徒理解につながる



成果や課題

- 道徳科の授業を確實に実施することができた。
- 教材研究を行う教材数の減少により、余白時間を確保することができた。
- 同一教材による授業を複数行うことにより、授業力の向上につながった。
- 初任者など若手教師の育成につながった。
- 複数の教師による多面的な生徒理解につながった。
- ▲ 同一時間に行つたことでお互いの授業を参観することができない。
- ▲ 何をどのように評価すればよいのか、学年間での共通理解が難しい。

学年間ローテーション道徳は若手教師の育成にも貢献



「小中同居型の少規模校」における工夫した道徳教育の実践【視点3】<相馬市立磯部中学校>

校長としての関わり

- ① 「小中同居型の少規模校・素直な生徒・地域とのつながりが強い」という実態を踏まえた運営ビジョン等を作成。
- ② 授業は、副担任、管理職も含めたローテーションで。県教委発行の「道徳の礎」を参考にするよう指示。
- ③ 生徒が多面的・多角的に考えたり、自己を見つめたりできるような発問の仕方、時間の確保、評価について助言。



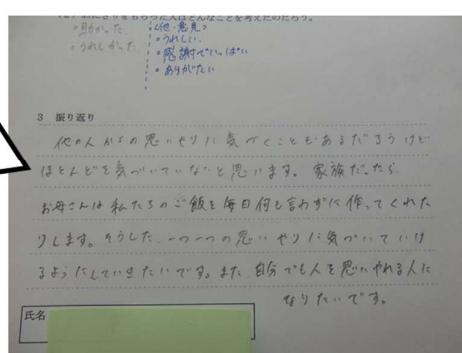
意見を交わす生徒



成果や課題

- 同僚性を生かしながら、教師が学習過程を見直し
 - 生徒どうしが話し合い、振り返る時間を確保
 - 発問の精選により、生徒が考えを深めるようになった
- ▲ 発問の仕方、時間の確保、評価について教師がさらに研修する必要がある。学校オリジナルで使いやすい別葉に修正。家庭・地域との連携、保護者やゲストティーチャーを交えた授業づくり。

生徒の振り返りの言葉



3. 振り返り
他人が自分の周りで感じることもある"うれしい
ほととじて感じたいなー"と思います。家族だから
お母さんは私たちのご飯を毎日作ってくれます
うれしいです。うれしいです。一つ一つの周りで感じ
うれしいです。また、自分から人を思ってくれる人に
なりたいです。

氏名

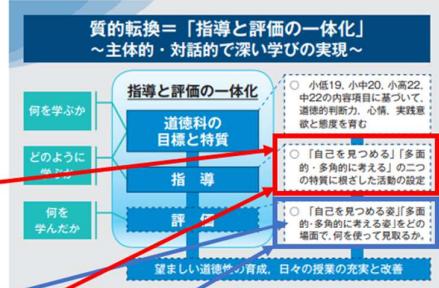
「小中同居型の小規模校」における工夫した道徳教育の実践 【視点3】

＜相馬市立磯部中学校＞

展開	2 「命のおにぎり」を読んで (1)範話を聞く。 (2)住民の気持ちを考える。 ○住民はどんな気持ちでおにぎりを作ったのだろう。 ・支援を受けたときのお礼 ・渋滞で動けないからかわいそう ・お腹がすいてるだろう ・寒くないかな ・体調はどうかな ・ガソリンは大丈夫かな (3)おにぎりをもらった人の気持ちを考える。 ○おにぎりをもらった人はどんな気持ちだったのだろう。 ・体が温まる ・お腹が減っていた ・渋滞が解消するまでがんばろう ・夜中に作ってくれたんだ ・大事の山芋でくれたんだ	7 全体 3 個人 8 全体	○範話を聞かせ、内容を把握させる。 ○おにぎりを作り、配った住民の気持ちを考えさせる。 ○自分の考えをまとめてからグループ内で話し合う時間を設定。 ○自分の考えと友人の考えを比べさせる。
終末	3 「自己を見つめる」 今までの自分は、他の人からの思いやりに気付いていたのかな。 (1)経験を振り返る。 ・毎日の家族の送り迎え ・弁当を作ってもらった ・悩んでいるときに励ましてくれた (2)共有	10 個人 5 全体	○相手のことを考えて行動できた体験について振り返り、そのときの気持ちや理由について考えさせる。 ◆日常生活や学校生活等を想起しながら考えている。(ワークシートへの記述・発表)

互見授業学習指導案 「命のおにぎり」 (ふくしま道徳教育資料集第Ⅲ集より)

授業の質的転換のポイントを教えてください。



- 「自己を見つめる」「多面的・多角的に考える」の二つの特質に根ざした活動の設定
- 「自己を見つめる姿」「多面的・多角的に考える姿」とどの場面で、何を使って見取るか。

指導の充実なくして、評価の充実はあり得ません。もう少し詳しく言うと、児童生徒一人一人のよさや可能性を受け止めて、認め、励ます評価を具現するためには、児童生徒のよさや可能性を引き出し、存分に発揮させる指導の充実が不可欠なのです。

「授業のねらい—指導—評価」が、「道徳的価値の理解を基に自己理解を深めること（自己を見つめること）」「物事を多面的・多角的に考えること」という、道徳科の二つの特質に一貫して基づいていることが大切です。



令和6年度道徳の基礎 (福島県教育委員会) より

- 道徳教育推進教師が中心となり、「自己を見つめる」「多面的・多角的に考える」活動や評価を学習指導案に位置付けるようになった。
- 同僚性を生かしながら、教師が学習過程を見直したこと、生徒どうしが話し合ったり、振り返ったりする時間を確保するようになった。
- 発問の精選を行ったことで、生徒がこれまでの経験や価値観と照らし合わせ考えを深めるようになってきた。初めは自己を見つめることができず、何も振り返ることができない生徒が見られたが、少しづつ振り返りを書く姿が見られるようになってきた。
- 「心のものさし」を取り入れ、生徒の心の動きを可視化する教師も見られるようになった。

「互いを認め合い、ともに輝く生徒の育成」～共生する力を育てる道徳教育～【視点3】

10

「人権とは何か？」
学年道徳の実施

校長としての関わり

- ① P 今年度の方針提示「人権教育」への焦点化・重点化
- ② D 道徳教育推進教師を中心としたカリキュラム・マネジメント（組織的・計画的実践）
- ③ C 各種アセスメントを活用した多面的な評価（見取り）
- ④ A 視点を明確にした改善点の提示



成果や課題

県人権作文表彰式（11月26日）の実施に合わせた取り組み

- ① 生徒全員に考えるきっかけを与える。
・人権標語への応募、人権作文コンテストに生徒全員で取り組む。
- ② 教育活動全体を通して指導する。
道徳教育推進教師を中心としたモラルエッセイコンテストへの参加とエッセイの活用、国語科による人権作文指導や3学年のデフリンピック参加等、教育活動全体で組織的に取り組んだ。
- ③ ローテーション道徳や学年道徳の実施を通して、道徳的価値と人権について考えを深めさせる指導の在り方について全教員で研修する。
- ④ 県人権作文表彰式で、受賞者による作品の朗読を生徒全員で聞かせることにより、人権の多様性や大切さについて考えを深めさせる。

人権を軸に、道徳、総合、社会科のカリキュラムマネジメント



「互いを認め合い、ともに輝く生徒の育成」～共生する力を育てる道徳教育～【視点3】<南相馬市立原町第一中学校>

11

①P 「人権教育」の重点指導方針を提示（職員会議、運委員会）

方針：「人権教育の充実」を重点指導事項として設定

教育目標の一つ「共生」、重点目標「互いを認め合い、ともに輝く生徒」→どう具現化するか？

②D 道徳教育推進教師を中心としたカリキュラム・マネジメント（組織的・計画的実践）

○道徳：人権に関する学年道徳の実施、モラルエッセイコンテストを活用した道徳の授業等実施
校内研究授業の実施

○カリキュラムマネジメント

- ・学校行事：県人権作文表彰式（発表会）を全校生で視聴
- ・各教科：人権作文・人権標語への参加（国語科、社会科）
- ・総合的な学習の時間：デフリンピック（デフサッカー）3学年の観戦を軸にした計画の見直し（デフリンピック出前講座、応援メッセージ作成、社会福祉協議会と連携：手話体験、福祉講話）

③C 各種アセスメントを活用した多面的な評価（見取り）

○全国学力学習状況調査（質問紙）、県学力調査（質問紙）、Q U調査（年2回）、学習適応検査（A A I）、学校評価アンケート等による多面的な評価

④A 視点を明確にした改善点の提示

スクールカウンセラーを活用して、いじめについて考えさせた道徳授業の実践【視点3】<南相馬市立鹿島中学校>

12

校長としての関わり

- ① 道徳推進教師等と連携して、SCを活用する道徳授業の提案
- ② 「相互理解・寛容」の項目を主題とし、多様性の理解を促し、いじめの未然防止に向けた授業内容を指示



SCの専門性を生かす授業

成果や課題

- 人との「違う部分（違和感）」よりも「似た部分（共感）」に注目して生活したほうが、幸せな生き方であることを理解し、命の大切さをより実感（生徒の変容）
- SCとのTTの効果をより実感（教員、特に若手教員の変容）



スクールカウンセラーを活用して、いじめについて考えさせる道徳授業の実践【視点3】<南相馬市立鹿島中学校>

- 実施時期 令和7年7月上旬
- 実施数学年 2学年 3クラス
- 実施方法 担任とスクールカウンセラーとのTT
- 授業内容 テーマ：「自分を知る 相手を知る」



* QRコードを読み込みアンケートに答える生徒

13

第3分科会
よりよく生きようとする意思や能力を育む道徳教育の充実

【視点4】
「ひとづくり・きずなづくり・ふるさとへの誇りと自信づくり」
のための道徳教育の充実

<相馬支会の取組>

14

【視点4】

「ひとつづくり・きずなづくり・ふるさとへの誇りと自信づくり」 のための道徳教育の充実

他校との交流防災学習を道徳教育に生かした実践

【視点4】

<新地町立尚英中学校>

地域教材「金次郎・高慶からの贈りもの」を道徳教育に生かした実践

【視点4】

<南相馬市立原町第三中学校>

他県の中学校との交流により「命の大切さ」を考えさせた道徳科の授業実践

【視点4】

<南相馬市立小高中学校>

探究的なふるさと学習「いいたて学」を道徳教育に生かした実践

【視点4】

<飯館村立いいたて希望の里学園>

他校との交流防災学習を道徳教育に生かした実践【視点4】

<新地町立尚英中学校>

校長としての関わり

★相手校との連絡調整

→ 大阪府豊中市立第一中学校 3年生（200名）との
防災交流学習

★職員への周知及び協力依頼

★防災交流活動のコーディネートと統括

★事前学習（防災学習）の実施

事前学習の様子



成果や課題

- 共感と想像力の育成
- 命の尊厳と防災意識の醸成
- 支え合いと連帯感の体感

防災交流学習当日



他校との交流防災学習を道徳教育に生かした実践【視点4】 ＜新地町立尚英中学校＞

大阪府豊中市立第一中学校3年生（200名）との防災交流学習
6/4（水）①東日本大震災・原子力災害伝承館 ②新地町文化交流センター
・防災学習（①、②）・交流活動…合唱『花は咲く』（②）

【事前学習（5/26～5/30）】



校長として

- ★教育委員会との調整
- ★相手校（豊中市立第一中学校）との連絡調整
- ★職員への周知及び協力依頼
- ★防災交流活動の統括
- ★事前学習（防災学習）の実施

他校との交流防災学習を道徳教育に生かした実践【視点4】 ＜新地町立尚英中学校＞

【6/4当日：東日本大震災・原子力災害伝承館、新地町文化交流センター】



校長として

- ★交流学習に同行
- ★交流学習の会場作成
- ★交流活動のコーディネート
- ★生徒への意欲付け
- ★交流学習の総括（生徒への評価）

他校との交流防災学習を道徳教育に生かした実践【視点4】 ＜新地町立尚英中学校＞

【まとめ】

1、共感と想像力の育成

伝承館での学習を通して、生徒たちは東日本大震災の甚大な被害と、それに伴う人々の悲しみや苦しみを具体的に知ることになった。この「事実」と「感情」の共有が他者の立場に立って物事を考える**共感力を**育み、見学を通して得た知識は、もしも自分たちが同じような状況に直面したらどうなるだろう、という**想像力を**刺激し、防災意識を内面から高めることにつながった。

2、命の尊厳と防災意識の醸成

伝承館での学習や、防災交流学習を通して、「自分の命」だけでなく、「他者の命」を守るための行動がいかに重要か生徒に考えさせる機会となった。この学びが、いざという時の避難行動や、日頃からの防災準備への意識を根付かせ、命を尊ぶ心を育んでいきたい。

3、支え合いと連帯感の体感

他校生徒との全体合唱という活動は、言葉や地域の壁を越えて心を一つにする貴重な体験となった。歌声を通して「私たちは一人ではない。」「困難な時こそ支え合う」という**連帯感**を体感できたと思われる。互いに理解し、尊重し合う心を育むことで、**共助の精神**や**多様性**を認め合う心を養っていきたい。

地域教材「金次郎・高慶からの贈りもの」を道徳教育に生かした実践【視点4】 ＜南相馬市立原町第三中学校＞

校長としての関わり

- ① 「ふくしま道徳資料集」、報徳仕法南相馬市版「金次郎・高慶からの贈りもの」を教育計画に位置付けて活用。
- ② 「考え方議論する道徳」や問題解決的な学習を取り入れたり全校道徳や各教科との関連を図ったりするよう指示。



成果や課題

- 報徳思想は「勤労」「推譲」「至誠」など、日常生活と結びついた価値観を含んでおり、生徒が身近に感じやすい。
- 尊徳の仕法の内容を調べたり、現代社会とのつながりを探ったりするなど、探究型の学習に展開しやすい。
- ▲ 歴史的背景や農村の復興といった文脈を十分に説明しないと、理解が浅くなってしまう。
- ▲ 「がまん」「勤労」などを一方的な美德とすると、時代に合わない教育になる可能性もある。



報徳仕法
「金次郎・
高慶からの
贈りもの」
南相馬市版

授業の様子



地域教材「金次郎・高慶からの贈りもの」を道徳教育に生かした実践【視点4】

<南相馬市立原町第三中学校>

学校の教育目標との一致

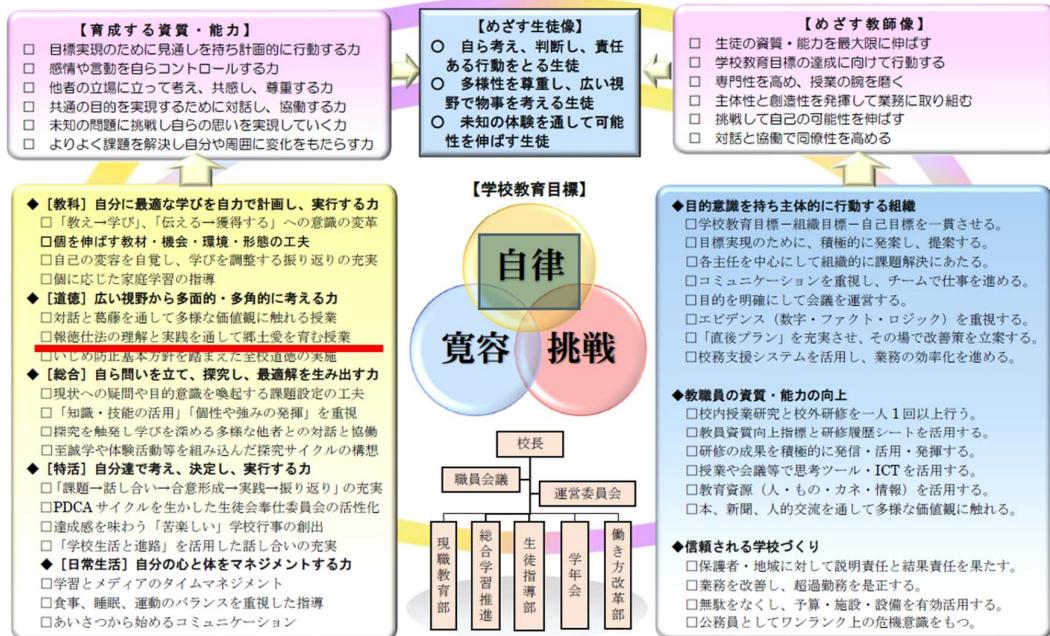
- 原町三中のめざす教育「自律」「寛容」「挑戦」が、報徳仕法の理念と自然にリンクする。
- 部活動・生徒会活動・地域行事など、学校生活全体に理念を広げやすい。
- 生活指導や学習態度の改善にもつながる「行動の指針」として機能する。

報徳仕法を道徳教材として取り入れることは、生徒が郷土の歴史に誇りを持ち、互いを思いやりながら自らの力で未来を築く力を育む上で、大きな意義を持ちます。それは単なる知識の習得ではなく、学校生活全体を通して実践できる「生き方の指針」を示すものです。

地域教材「金次郎・高慶からの贈りもの」を道徳教育に生かした実践【視点4】

<南相馬市立原町第三中学校>

令和7年度 南相馬市立原町第三中学校 学校経営ビジョン



他県の中学校との交流により「命の大切さ」を考えさせた道徳科の授業実践【視点4】<南相馬市立小高中学校>

校長としての関わり

- ① 職員会議により実施に向け道徳との関連を図ることの共有
- ② 交流会に向けた学年ごとの実践
- ③ 地域人材・地域施設の活用
 - 1年：震災講話
 - 2年：アーカイブミージアムの感想
 - 3年：被災地の市民として
- ④ 合唱曲「群青」を通した震災の伝承



震災時の小高の様子
についての講話

成果や課題

- 「群青」を歌い継ぐことによる災害の記憶の継承
- 若手教員が増加するなかで、震災教育の必要性の体感
- 震災の伝承や他校の取組との交流を図ることで、震災後の世代に移るなかでも記憶を風化させない。

3校交流会の様子



他県の中学校との交流により「命の大切さ」を考えさせた道徳科の授業実践【視点4】<南相馬市立小高中学校>

- 修学旅行等を通して、他校との交流活動を行う京都市立京都御池中学校から、爆心地に近く長年平和教育に取り組む長崎市立山里中学校と、本校の3校による「命の大切さ」について考える交流会の実施を打診される。
- 「群青」について

東日本大震災により本校舎を離れ、南相馬市鹿島区の仮設校舎での生活を強いられることに。平成24年度の卒業生と音楽教諭が授業を通して、「別れを告げることも再会を誓うこともできないまま離れてしまった友だち、故郷で友と一緒に過ごした時間」に思いを寄せ、歌詞をつくりあげた。

探究的なふるさと学習「いいたて学」を道徳教育に生かした実践 【視点4】<飯館村立いいたて希望の里学園>

校長としての関わり

- ① 探究的なふるさと学習である特別な教科「いいたて学」と道徳科のカリキュラムマネジメント
⇒「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」
- ② 道徳教育推進教師を中心として、地域連携担当教職員との連携を指示しながら地域の講師をコーディネート
⇒探究的なふるさと学習である特別な教科「いいたて学」を道徳教育に生かす。
- ③ 文化祭や「いいたて学」発表会、こども議会において、お世話になった講師、保護者、飯館村議會議員の方々への発表の場を作る。
⇒今後の指導や評価に生かすように指示



文化祭での「いいたて元氣太鼓」
「小宮の田植え踊り」の発表の様子

成果や課題

- 郷土や地域を愛し、積極的・主体的に関わり、郷土のために自分ができることは何かを考え、郷土の発展のために自分が寄与しようとする意識を高めることができた。
- 道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深めることができた。
- 道徳教育の内容項目を共有しやすいものとし、保護者や飯館村議會議員、地域の講師の方々との連携を深めることができた。
- ▲ 探究的なふるさと学習である特別な教科「いいたて学」と道徳科のカリキュラムマネジメントを行う際、義務教育学校9年間の系統性・継続性をもたせるため、スリム化を図る必要がある。

「いいたて学」発表会の様子



探究的なふるさと学習「いいたて学」を道徳教育に生かした実践 【視点4】<飯館村立いいたて希望の里学園>

学校における道徳教育は、道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行うものである。つまり、道徳科は、各活動における道徳教育の要として、それを補ったり、深めたり、相互の関連を考えて発展させたり統合させたりする役割を果たすものである。

本校は義務教育学校であるため、特別な教科である探究的なふるさと学習「いいたて学」を設置することができ、9年間系統的に取り組んでいる。校長として、その「いいたて学」と道徳科のカリキュラムマネジメントを行い、【視点4】の「ひとつづくり・きずなづくり・ふるさとへの誇りと自信づくり」のための道徳教育の充実を推進し、児童生徒の「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」を高める実践をしている。

また、道徳教育推進教師を中心として、地域連携担当教職員との連携を指示しながら地域の講師のコーディネートも行っている。

さらに、道徳教育の内容項目を共有しやすいものにするため、そして、児童生徒自らが道徳性（道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度）を深めるため、文化祭や「いいたて学」発表会、こども議会において、お世話になった講師、保護者、飯館村議會議員の方々への発表の場を作った。

しかし、「いいたて学」と道徳科のカリキュラムマネジメントを行う際、義務教育学校9年間の系統性・継続性をもたせるため、スリム化を図る必要があるという課題が残った。

第3分科会

よりよく生きようとする意思や能力を育む道徳教育の充実

【視点1】

**道徳的諸価値についての理解と、
道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成**

<相馬支会の取組>

【視点1】

**道徳的諸価値についての理解と、
道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成**

生徒の心を開き、心に響く全校道徳の実践

【視点1】

<相馬市立中村第一中学校>

外部の人材の考え方や保護者の意見等、多様な考えに触れさせ、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成を図った実践

【視点1】

<南相馬市立原町第二中学校>

ウォーキングフットボールを道徳教育に生かした実践

【視点1】

<南相馬市立石神中学校>

生徒の心を開き、心に響く全校道徳の実践【視点1】

＜相馬市立中村第一中学校＞

校長としての関わり

- ①「命の教育」を全校道徳、授業、日常へマネジメント
 - ・自分の価値に気付き、自分を大切にできる生徒を育てたい思い
- ②「実感」と「共感」を伴った全校道徳の実施
 - ・講師の選定及び内容と構成についての校長からの要望
- ③校長からのメッセージを発信
 - ・生徒一人一人を肯定する言葉やメッセージを継続して発信



「あなたは、あなたで大丈夫」という深い歌詞の曲を要望

成果や課題

- 歌詞から感じたことを感想カードやペアトークで語り合うことで「他人と比べなくてもいい」「自分らしさを大切にする」といった自己肯定感の高まりを感じた意見が多数みられた。
- 「命の教育」を一過性のものにしないよう、生徒会のいじめ根絶集会等と連動させ、校長からもメッセージを発信する。
- ▲ 道徳教育の枠を越え、「承認」「受容」「信頼」を育てる取組を主導していきたい。



「自ら命を絶つな」ストレートなメッセージを込めて

生徒の心を開き、心に響く全校道徳の実践【視点1】

＜相馬市立中村第一中学校＞

- 「命の大切さ」や「自死予防」を道徳の授業で取り扱う難しさを感じている教員との対話からスタートした全校道徳での企画である。
- 「自らの命を絶つな！」と教師の言葉で語ることは簡単だが、生徒の心を開き、響かせることは簡単ではない。歌やパフォーマンスでストレートにて伝え（伝えてもらおう）、教室での「命の教育」につなげていこうとしたねらいがあった。
- 「あなたは、あなたで大丈夫」という歌詞に込められた思いを生徒は受け止めることができた。終演後、「自分は、自分のままで大丈夫」という思いを伝えたいと、生徒が演者に歩み寄り、語り合う場面があった。



外部の人材の考え方や保護者の意見等、多様な考えに触れさせ、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成を図った実践【視点1】 ＜南相馬市立原町第二中学校＞

校長としての関わり

- ① 対話を重視した、考え・議論する道徳への転換を学校経営ビジョンに位置付け
- ② ICT活用で多様な考えに触れさせる実践を推進
- ③ 学級活動、総合的な学習の時間、道徳科のカリキュラムマネジメント



その「いじり」、「いじめ」
どこから？

成果や課題

- ロイロノートやGoogleフォーム等の活用で、多様な意見に触れ、対話の深まりにもつながっている。
- 道徳科で学んだ価値を、学級活動（各自の生活の振り返り）や、総合学習（地域学習）と関連付け、実践意欲につなげることができた。
- ▲ より多くの保護者の協力を得るよう校長からも協力を呼びかけていきたい。

野馬追の旗の説明や
文化を再認識



外部の人材の考え方や保護者の意見等、多様な考えに触れさせ、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成を図った実践【視点1】 ＜南相馬市立原町第二中学校＞

【ロイロノートを活用した授業実践の例】

自分的にいやなことを「超・いや！」と「まあいや」の間に配置させ、同じ行為でも、人によって感じ方が異なることを可視化し、これをもとに対話を行って相手はどう思うかということを実感させている。



それぞれの考え方を表示させた画面

外部の人材の考え方や保護者の意見等、多様な考えに触れさせ、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成を図った実践【視点1】 ＜南相馬市立原町第二中学校＞

【Googleフォームを活用し保護者の意見を取り入れた例】

道徳の授業内容（いじめについて考える）を学級通信に紹介し、同時にQRコードを表示して、保護者へGoogleフォーム意見の入力を求めた。

回答数は少なかったが、生徒に結果を紹介し、授業の後でも継続して考えるきっかけになった。

学級担任からこのような方法で保護者の意見を求めてよいか相談があり、校長は許可するとともに、学級通信への載せ方も含めて助言を行った。

3 2でお答えいただいた理由を教えてください。

不要だと言いたいが、お笑い芸人のような、エンタメで人に笑ってもらえてお金を頂く職業もあるので、中立の立場をとった。正直、自分自身も相手に対してチャームポイントとして、いじってしまうことがある。それが、相手にとって言われたくないコンプレックスだったり悩みかもしれないのに。

1件の回答

いじりがエスカレートしていじめになるやめてと言えない人もいるやめてと言ってもやめない人がいるみんな(お互い)が楽しいなら必要な場合もあるかもしれないが...いじられた人の気持ちがどうかを考えなくてはいけないと思う

1件の回答

対等な関係で、コミュニケーションが互いに盛り上がりければ親密さが深まると思う。一方的に相手が不愉快な思いを受けるときは不必要。

1件の回答

ウォーキングフットボールを道徳教育に生かした実践 【視点1】 ＜南相馬市立石神中学校＞

校長としての関わり

- ① 地元のNPO（はらまちクラブ）を介して、講師をコーディネート
 - ウォーキングフットボールを道徳教育に生かす
 - 複数年度に渡って実施できるような工夫も
- ② 保健体育科と道徳科のカリキュラムマネジメント
 - 「思いやり、感謝」「相互理解、寛容」
- ③ 活動の中で見られた「生徒の道徳的実践意欲や態度の成長」を、今後の指導や評価に生かすよう指示

NPOを介して講師をコーディネート



成果や課題

- 最初は、サッカーとの違いに戸惑う生徒も、「自分が楽しいだけじゃダメ。相手も楽しいようにする。」を理解。
- 「学校教育全体を通じて行う道徳教育」を意識付け
- ▲ 今年度は11月実施予定
 - 事前・事後の指導も含めてマネジメントしたい。

「相手も楽しい」を実践する生徒



ウォーキングフットボールを道徳教育に生かした実践 【視点1】<南相馬市立石神中学校>



※JFA(日本サッカー協会)HPより



- ◆特有のルール（主なもの）
 - ・全員歩いてプレー
※1秒に2歩程度まで
 - ・接触プレー禁止
 - ・ゴールエリアに進入禁止
- ◆日本独自のルール
相手が保持しているボールを取らない（前をふさぐだけ）

※講師の松田薫二さんが、授業の最初に話したこと

「スポーツだから勝ちに行くんだけど、勝つだけが目的じゃない。みんなで楽しむこと。」

「自分が楽しいだけじゃダメ。相手も楽しいようにする。」

「基本のルールはあるけど、参加者の状態（年齢や性別、障がいや病気など）によって、みんなが楽しむためにどんなルールが必要か、その場で考えてもいい。」

35

第3分科会 よりよく生きようとする意思や能力を育む道徳教育の充実

相馬支会の取組<成果や課題>

36

成果や課題

- 教材等のデータベース化やローテーション道徳の実践、SCや外部人材の活用などにより、授業準備の負担を減らす工夫が見られた。
これらの取組は、生徒にとってより多くの価値観に触れる機会になるだけでなく、若手教員の指導力向上にもつながる効果があった。
- 東日本大震災を経た本支会内の現状に合わせて、ピンチをチャンスに変えるよう工夫した取組や、震災を機に繋がった様々な「縊」を道徳教育に生かす取組が見られた。
- ▲ 保護者を含む外部人材等の活用や、各校の規模や実状に合わせたローテーション道徳、他教科とのカリキュラムマネジメント等を進める一方で、【視点2】に関わる「評価の工夫」について悩む声もあった。

NotebookLM

あらゆることの理解を助ける

信頼できる情報に基づくリサーチと思考のパートナーです。最新の Gemini モデルで構築されています。

- ◆ Google発の A I のひとつ
- ◆ F C S のアカウントで使える
- ◆ ちなみにGemini ✨ も使える

Gemini

